東北学院大学

〔大学院〕文学研究科・経済学研究科・経営学研究科・
法学研究科・工学研究科・人間情報学研究科

〔学　部〕文学部・経済学部・経営学部・法学部・工学部・
教養学部・地域総合学部・情報学部・人間科学部・
国際学部

土樋キャンパス
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-1
TEL 022-264-6411（総務課）
FAX 022-264-3030（　〃　）

五橋キャンパス
〒984-8588 仙台若林区清水小路3-1
TEL 022-354-8100（総務課）
FAX 022-354-8105（　〃　）

泉キャンパス
〒981-3193 仙台市泉区天神沢2丁目1-1

東北学院大学後援会通信GROWTH（グロース）vol.43
発行日／2023年10月
編　集／東北学院大学後援会事務局（総務部総務課内）
発　行／東北学院大学後援会
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-1　TEL 022-264-6411　FAX 022-264-3030
E-mail kouenkai@mail.tohoku-gakuin.ac.jp　URL https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/kouenkai/
制　作／Hi creative inc.

GROWTH（グロース）の意味は、「成長する」です。聖書には、「どんな種より小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる」（マタイによる福音書第13章32節）、また、「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です」（コリントの信徒への手紙一第3章6節）と記されています。東北学院大学の学生の皆さんが各分野において、知識や技術、教養を充分に修め、神と人に祝されつつ大きく成長するようにという期待が本紙に込められています。

【本紙における個人情報及び掲載記事の取り扱いについて】
本紙に掲載されている個人情報は、本人の了解のもとで本紙に限り公開しているものです。よって、第三者がそれらの個人情報を別の目的で利用することや、本紙の無断転載はお断りしております。

■本紙に関するご意見・ご要望をお待ちしております。

大学と家庭をむすぶ

GROWTH

後援会通信
グロース
vol.43
2023
AUTUMN

特集

教育DXとは？

—学びの可能性を、次のステージへ。—

東北学院大学

https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/kouenkai/

東北学院大学
教育DXとは？

—学びの可能性を、次のステージへ。—

教育の現場に押し寄せるDXの波。変革という新しい地平へ。

金融DX、経理DX、医療DX、建設DX、観光DX…書店のビジネスコーナーには“○○DX”と銘打った書籍がずらり。ここ最近のDXへの関心の高さと急速な広がりがうかがえます。

DX（Digital Transformation：デジタルトランスフォーメーション）とは、デジタル技術による社会や産業、暮らしの変革。単にICT（情報通信技術）を取り入れるだけではなく、デジタルテクノロジーやそれを通じて集めたビッグデータにより、これまでの概念や仕組み、構造を根底から変えてしまうような、新しい価値の創造を視野に置くものです。

もちろん教育の現場も例外ではなく、DXの推進による学修者本位の学びや「教育の質の保証と向上」を目指す動きが顕著です。今回は、日本の教育を大きく変えうるDXについて取り上げます。

DX。定義は「情報技術の浸透が、あらゆる面でより良い方向に変化させること」。

産業界だけではなく、行政、医療、教育など幅広い分野で急速に広まりつつあるDXの取り組み。日本におけるDXは、2018（平成30）年、経済産業省が「デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進するためのガイドライン」を取りまとめたことを機に注目され始めました。ちなみにDXという記述ですが、Transformationの接頭辞Trans-がしばしばXと略されることから、DTではなくDXと書き表されるようになったと言われています。

教育現場でのDXは、2019（平成31）年、文部科学省が打ち出した「GIGAスクール構想」に始まります。これは初等中等教育でのICT(Information and Communication Technology：情報通信技術）教育の普及と充実に向け、全国の小中学校で「1人1台端末」ならびに「高速大容量の通信ネットワーク」を一体的に整備するという内容を織り込んだものです。同時に「ICT環境やツールの提供はあくまでも手段であり、目的ではない」、「多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、個別最適化された学びや創造性を育む教育を行う」ことが重要と謳われています。

生まれたときからインターネットが身近にある世代「デジタルネイティブ」が、高度な情報活用能力を育み、デジタルテクノロジーを駆使し、創造性を発揮していくことが期待されているのです。

さて、大学ではDX実装に向け、どのような動きがあるのでしょうか。

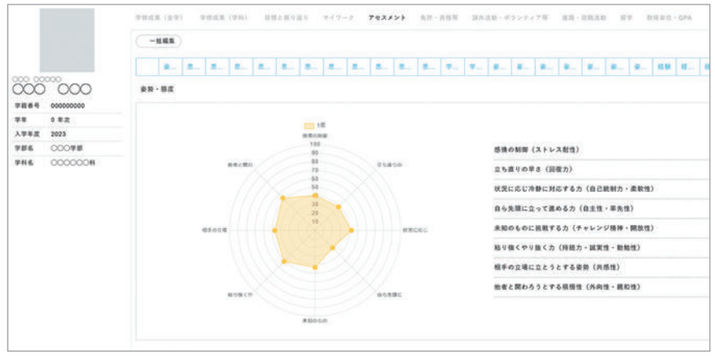
文部科学省は2020（令和2）年、「大学教育のデジタライゼーション・イニシアティブ（Scheem-D）」を立ち上げ、学修者本位の大学教育を実現するため、サイバーとフィジカル（実世界）を組み合わせ、教育活動の改善や進化につなげる取り組みを後押ししています。“学修者”とは、現役の学生だけではなく、リスキリング・リカレント教育などの学習機会を求めるすべての世代、人びと。人生100年時代の“学び続ける姿勢と意欲”に応えるものです。

一方、近年の「オープンサイエンス」（研究者のような専門家だけではなく、あらゆる人びとが研究成果・情報にアクセスしたり、学術的研究活動に参加できたりするような仕組み）のように、研究をすべての人に開かれた営為にするための「研究DX」も注目されています。「経営DX」は、非常に多岐にわたる大学運営業務全般をデジタル化することにより、ヒューマンリソース（職員の資質・能力）を大学の新価値創出に充てることを目指すものです。

次ページ（p.3）からは東北学院大学の教育DXの現在進行形と、実際の学びに活用している学生さんの声をご紹介します。

教育DXとは？ ―学びの可能性を、次のステージへ。―

大学の知的資産をデジタル技術と融合させ、社会に開かれたものとしていく。



2020（令和2）年以降、新型コロナウイルス感染症拡大防止により教育活動は大きく制限されました。しかし、期せずしてコロナ禍は、情報端末（パソコン、タブレット、スマートフォン等）を介した教育を進展させました。

東北学院大学では、2015（平成27）年頃よりインターネットを通じて講義資料・教材の閲覧やレポートの提出が行える学習管理システム（manaba course:マナバコース）の導入を進めていました。本格運営を始めようかという矢先に、コロナ禍に見舞われ、遠隔授業（リアルタイムで行われるオンライン授業と、あらかじめ録画されている講義を視聴するオンデマンド授業の２種がある）への移行を余儀なくされました。前述のmanabaは、新しい授業体制の構築に向け、大いに役立つこととなりました。

遠隔授業は、インターネットと情報端末の環境が整っていなければ受講できません。本学では、すぐに通信環境を整備できない学生を対象に学内の機器やルーターを貸し出す支援を行いました。2021年度には、入学時にこれらの環境を整え、個人所有のデバイスを大学でも自宅でも学習に利用するBYOD(Bring Your Own Device)を全学導入しました。遠隔授業、対面授業以外にもキャンパス内のあちこちで自分のパソコンで学ぶ姿が日常になっています。

初めての試みであった遠隔授業は、教える側も手探りで進めなければなりませんでした。本学では、前期終了後に学生さんにアンケートを実施。寄せられたコメントには「私だけに語りかけてくれるようで集中できる」、「わからないところは繰り返し視聴して理解に努めた（オンデマンド授業）」、「倍速で見て時間を節約し、残った時間は苦手科目の克服に充てた（同）」といったポジティブな感想のほか、「一方通行で内容が頭に入ってこない」、「みんなで一緒に学ぶといった授業の雰囲気が楽しめない」、「課題が多い（教員は習熟度確認のため授業ごとに課題を出すことが求められていた）」といった意見もありました。アンケート結果は、教員へフィードバックし、授業設計や教授法の改善、向上につなげています。

本学では昨年度末より、学生さん個々の学修行動を記録し、その評価と軌跡を可視化する eポートフォリオ「TG-folio（ティージー・フォリオ）」を導入しました。（編集部注:次ページp.4で詳しく取り上げます）。これは在学中の学習効果の最適化・最大化を図るとともに、自律的学習（self-directed learning：自分自身に必要な学習分野を見つけ、目標を設定し、適切な方法を選択・実行し、その結果を自身で評価していく学習プロセス）のスキルや姿勢を育むことも目指しています。

「教育DX」の理念の一つとして、学術や研究の分野で築いてきた知的資産をデジタル技術と融合させることで、新しい価値を創出し、それを社会に開かれたものにしていく、ということが挙げられるでしょう。資格取得やリスキリング、リカレント教育のためのオンライン講座や、ウェブ上で自由にアクセスできる研究成果・論文などは、今後ますます高まるであろう生涯学習やオープンサイエンスのニーズに応えるものです。さまざまな事情により大学教育を受けられない方への機会提供、働きながら大学院で研鑽を積みたいという要望に、“バーチャル”が果たせる役割は少なくないはずです。

いつの時代も変わらない大学教育の使命・責任と、社会システムや産業構造の変化に合わせて変わり続けなければならない教育の有り様。私たちのチャレンジングな取り組みはこれからも続きます。

中沢　正利
NAKAZAWA Masatoshi
profile
1987年東北大学大学院工学研究科博士課程後期満期退学。専門は構造解析学。東北大学工学部助手を経て、1994年東北大学工学部講師、1996年助教授、1999年東北学院大学助教授、2002年教授。2014年から2019年まで工学部長を務め、2020年から副学長（点検・評価担当）。

「TG-folio」。学修者本位の教育と、大学の「教育の質の保証」を架橋する。

東北学院大学では、教育DXの一つの方策として、今春より「TG-folio」を導入しました。学修の過程と成果を“見える化”するeポートフォリオは、「学修者本位の教育」を実現する仕組みであり、大学での学びを進化・深化させるシステムです。

全国どこにいても一定水準の教育を受けられるように学習指導要領が定められている初等中等教育とは異なり、多岐にわたる分野・領域、研究の手段から主体的に選び取っていくのが大学での学びのスタイルです。

一方、大学では教学上の「三つのポリシー（学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針）を明らかにし、どのような教育により、どんな人材を輩出するのかを明確にしなければなりません。近年では、特に学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー、本学には５項目ある）に関して、説明責任が求められるようになりました。どのようなことを学び、身につけたのか、お墨付きを与えるというものです。

学生さんに必要な主体的な行動（学修者本位の教育）と、大学に課せられる「教育の質の保証」を架橋するのが「TG-folio」です。

「TG-folio」はインターネットを介して、システム内の自分のページにログインすることで利用します。まず学期の始めに大学での学び、課外活動、進路に関する目標を立てます。そして学期終了後の成績や評価チャートを確認しながら、自身の学修行動の改善や見直しへと反映させていきます。足りない部分やもっと努力すべき点を理解し、新たな目標につなげていくという改善プロセスです。今はまだ検討段階ですが、今後はＡＩによる学修ログ診断を導入することで、学生さん一人ひとりにきめ細やかなアドバイスを行う最適化教育支援を展開していくこともできます。

導き手である教員側は、「TG-folio」を通じ、全体的な理解・習熟度、授業の達成状況を分析して、教授法の検討や開発につなげていくこともできます。こうした授業内容・方法を改善し向上させる組織的な取り組みは、ファカルティ・ディベロップメントと呼ばれ、教育の質を保証するための実践的な取り組みとして多くの大学で進められています。

従来は、大学卒業時にどんな学びと経験を重ね、どのような能力・個性を育み、力量を付けたかなどを客観的に説明する手段がありませんでした。しかし、「TG-folio」に蓄積されたデータがあれば、成績、ディプロマ・ポリシーに対する評価、課外活動、資格、受賞歴などについて網羅した「ディプロマ・サプリメント（学位証書補足資料）」を作成することができます。これは透明性の高い学修到達レポートであり、3年次終了時点のディプロマ・サプリメントは、就職活動等で提示することができます。

これからの私たちは、長寿化や社会・雇用環境の変化により、生涯に複数のキャリアを持つ人生を生きるようになると言われています。働きながらの学び直しが必須となる時代にあって、「TG-folio」によって養われた自律的学習の習慣と態度は、学生一人ひとりの学びの充実、「知の好循環」につながっていくのではないでしょうか。

稲垣　忠
INAGAKI Tadashi
profile
2003年関西大学大学院総合情報学研究科博士課程修了。専門は教育工学、情報教育。2003年東北学院大学教養学部専任講師を経て、2006年助教授、2017年教授。2018年からは文学部教授となり、2020年より学長特別補佐（教学改革担当）。現在は東北学院大学デジタルトランスフォーメーション推進委員会の「eポートフォリオ部会」部会長を担当。

教育DXとは？ ―学びの可能性を、次のステージへ。―

学び、つながる、オンライン。

インターネットを利用した履修情報の把握、学びの記録と蓄積。学修行動を一歩前に

「TG-folio」で自分の成長と向上の過程を確認。目標を進化させていきたい。

私たちは小さい頃から情報端末に親しんできた世代です。小学校（総合学習）、中学校（技術・家庭科）、高校（情報）とパソコン操作やソフトを使う授業を受けてきました。

本学での学修の仕組みは、情報端末を使うことが前提となっていますが、初期設定の際には、説明動画などが配信され、戸惑ったりすることはありませんでした。操作や使い方で学生が困ったりすることのないようサポート体制は充実しています。

manaba（学習管理システム）は、授業の資料を見たり、課題を提出したり、オンデマンド授業を受講したりと、使用頻度がとても高いです。「TG-folio」は学期ごとに、目標の設定→達成度への自己評価→振り返り→次の目標という学修サイクルで、自分の成長と向上の過程が確認できます。私の場合、1年生の前期は大学での学びが未知だったので、「90分授業に慣れる」「単位を取りきる」というものでしたが、後期はもっと具体的かつ詳細な目標を掲げたいと思っています。

私は、在学中に複数の資格取得を目指しており、経営学科には関連した科目が設置されていると知って、志望しました。少し難易度の高い資格ですが、努力を重ねていきたいと思います。

name:
松田　優奈 さん
class: 経営学部 経営学科
grade: 1

「TG-folio」で、目標、方向性を明文化。アウトプットで、自覚と意欲も芽生えます。

両親ともに教員で、父は特に配慮が必要な児童生徒の支援に当たっていました。私が中学3年生の時、父からアドラー心理学の本を渡されました。ちょうど高校受験の時期で、自分自身も思うところがあり、心理学の書籍を手に取るようになりました。心や精神に対する多様な思索に触れるうち、おもしろいなと興味を持つようになりました。

大学は「人間の心と身体、社会との関係を科学する。」と掲げている本学科を選びました。まだ1年次の前期しか授業を受けていませんが、自分自身で探究したかった分野にとても近く、これからの授業やゼミがとても楽しみです。

「TG-folio」は、学びに対する考えや目標、方向性を明文化できる点がよいと思います。明確にアウトプットすることでしっかりやろう、という自覚も芽生えます。両親からのアドバイスは「落単（単位を落とす）しないこと」「心理学と真剣に向き合うこと」でした。

高校までは対面授業がほとんどでしたが、大学では対面とオンデマンド（編集部注：受講生が多い場合は感染症対策の観点から遠隔授業となる）、２つのスタイルで授業が行われるようになりました。自分自身は、リアルタイムで質問・意見交換ができる対面授業が貴重だなと感じています。コミュニケーションを大事にしながら、知識を深めていきたいです。

name:
大久保 志優 さん
class: 人間科学部 心理行動科学科
grade: 1

後援会新会長ご挨拶

東北学院大学
後援会 会長
氏家 照彦
株式会社七十七銀行
取締役会長

晩秋の候、在学生の保護者の皆さまには、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は、本後援会の活動に対しまして、格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、私ことこのたび東北学院大学後援会会長を拝命いたしました。

2023年6月10日の後援会総会をもちまして退任された、前任の鎌田宏氏におかれましては、2014年5月から9年間にわたって会長として本後援会の活動にご尽力いただきました。課外活動団体や就職活動、各種奨学金への助成に加え、2019年からの新型コロナウイルス感染症のパンデミックという歴史的な社会変容の中で、本後援会の運営も様々な困難に直面する中、学生に対して一律5,000円の援助やPCR検査費用の援助、消毒液・マスクの配布など、積極的な学生支援に取り組まれてきました。こうした混乱期にありながら、保護者と大学のむすびつきの強化を陣頭で指導なされた鎌田前会長に、改めて心から感謝を申し上げたいと存じます。

本後援会は、在学生の保護者の皆さまを会員として、お子様の円滑な学生生活と大学の充実・発展に寄与するため、1949年に設立され、各種の活動を展開してまいりました。その中でも、「後援会総会」と「地区後援会」は、保護者の皆さまと大学の教職員が直接交流できる場として大変好評をいただいております。

私は、後任として鎌田前会長のご業績を引継ぎ本後援会の運営に臨みつつ、後援会事業の充実と発展に向けて全力を傾ける所存です。

むすびになりますが、会員の皆さまには、今後とも本後援会の活動に積極的にご参加いただき、更なるご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

profile

趣味：蕎麦の食べ歩き、旅行
家族構成：現在は妻と二人
座右の銘：有法子（没法子の対義語）
愛読書：平川新著「戦国日本と大航海時代」
好きなスポーツ：かつてはゴルフ、現在はスポーツ観戦（特にビールを飲みながらの大相撲観戦）

経歴：
昭和44年 3月 慶應義塾大学 経済学部卒業
昭和44年 4月 日本興業銀行入行
平成 4 年 8月 同行 関連事業部参事役
平成 5 年 6月 株式会社七十七銀行 参与
同行 取締役営業開発部長
平成 7 年 6月 同行 取締役営業推進部長
平成 9 年 6月 同行 取締役本店営業部長
平成10年 6月 同行 常務取締役本店営業部長
平成11年 6月 同行 常務取締役調査部長
平成12年 3月 同行 常務取締役
平成14年 6月 同行 専務取締役
平成17年 6月 同行 取締役副頭取(代表取締役)
平成22年 6月 同行 取締役頭取(代表取締役)
平成30年 6月 同行 取締役会長(代表取締役)

開催報告

後援会総会・大学開放プログラム

2023年６月10日（土）

４月に開学した五橋キャンパス、
土樋キャンパスの２キャンパスを会場に、
「2023年度東北学院大学後援会総会」と
「大学開放プログラム」を開催しました。

五橋キャンパスの押川記念ホールで行われた後援会総会では、鎌田宏後援会会長（当時）が議長を務め、2022年度の後援会収支決算及び会計監査報告、2023年度後援会予算案や事業計画などを説明し、お集まりいただいた多数の保護者にご承認いただきました。

大学開放プログラムでは、４月に開学を迎えた五橋キャンパスの見学ツアーが特に人気で、予約開始とともにほぼ全ての枠が埋まるほどでした。ツアー参加者以外にも新しいキャンパスを熱心に散策される様子が見られ、学生の新たな学び舎に対する期待の声が寄せられました。

教養セミナー（右ページ参照）終了後は、五橋キャンパス講義棟で１・２年生対象と３・４年生対象に分けた学生の就職を考えるセミナーが実施され、最新の就職事情や保護者のサポートなどについての説明を行いました。

後援会総会

議事報告

（1）2022年度後援会庶務報告について

白木進庶務担当理事より、役員人事、2022年度役員会、2022年度後援会総会、2022年度地区後援会の開催について報告があり、原案通り承認されました。

（2）2022年度後援会収支決算報告並びに会計監査報告について

浅野ひとみ会計担当理事より報告があり、原案通り承認されました。
佐浦みどり監事より、帳簿等が正確に整備されていることについて監査報告がなされました。

（3）東北学院大学後援会会長の選任

鎌田宏氏の退任が承認され、白木進庶務担当理事から推挙された、氏家照彦氏が新会長に選任されました。

（4）2023年度後援会事業計画（案）について

白木進庶務担当理事より、2023年度後援会総会、地区後援会について説明があり、原案通り承認されました。

（5）2023年度後援会収支予算（案）について

浅野ひとみ会計担当理事より説明があり、原案通り承認されました。

（6）その他

来年度は2024年5月下旬または6月に開催の予定です。案内状は4月下旬に発送予定です。

キャンパス見学ツアー

完全予約制の２部構成で実施し、五橋キャンパスと土樋キャンパス、ご希望のキャンパスを選択していただきました。

＼歴史と伝統を感じる礼拝堂／

土樋キャンパス見学

ボランティアの学生がガイド役を務め、各施設の紹介を行いました！

＼シュネーダー記念館16階からの見事な眺望！／

五橋キャンパス見学

「さいち」のおはぎと
五橋キャンパス学生食堂
限定メニューを選択できる
お食事引換券を配付しました

大学開放プログラムに参加して

- 新しいキャンパスの見学を目的に参加しました。素敵なキャンパスに感動しました。
- 学生想いの充実した設備を体感できました。またゆっくりと見学したいです。
- 新しさの中にも東北学院らしい伝統を感じることができました。
- 土樋キャンパスならではの良さを改めて感じる機会となりました。

保護者と学生のための教養セミナー

著書『「学力」の経済学』が教育書として異例の30万部を突破するなど教育経済学の分野でご活躍の中室牧子先生（慶應義塾大学総合政策学部教授）にご講演をいただきました。「教育経済学の最前線　～教育に科学的根拠を！」と題したセミナーでは「データに基づく教育の重要性」や「テストの点数や偏差値といった数値で測ることのできない人間的な力＝非認知能力」についてお話があり、大変貴重な講演となりました。

PRESENT
中室 牧子氏サイン本　6名さま
詳しくはP18へ

その他様々な催しがありました。

パイプオルガンコンサート＆聖歌隊による合唱

学科別懇談会

学生の就職を考えるセミナー

後援会総会当日の模様はこちらから
https://www.youtube.com/watch?v=UEWdNpQqqwQ

開催報告

東北学院大学 地区後援会

2023年 7月8日(土)〜9月10日(日)

全国28地区で地区後援会を開催し、本学教職員による東北学院大学の近況報告や個別面談、自治体等による地元就職セミナーなどが行われました。

主なプログラム

- **大学からの挨拶**
  本学の教育方針・近況の報告など
- **3部からの説明**
  ・学務部…「進級・卒業」「単位取得」「科目登録」など
  ・学生部…「奨学金」「課外活動」「アルバイト」など
  ・就職キャリア支援部…「就職活動」「キャリア形成」など
- **自治体等による地元就職セミナー**
- **大学紹介(動画上映)**
- **個別面談(希望者のみ)**
  さまざまな内容に対する相談を個別に行いました。

3部からの説明

コロナ禍のもと、学生はもちろん保護者の皆さまも、学業や学生生活、就職活動などについて様々な不安を抱いています。地区後援会では、学務部、学生部、就職キャリア支援部の職員が活動内容を紹介し、ご家庭で活用いただきたい情報などをお伝えしました。

学務部

学びの成果や現状を保護者の皆さまと共有し、東北学院大学での４年間を実り豊かなものに。

学務部からは、本学が導入している各種学修支援システムや、履修成績通知書(成績表)の見方、GPA(Grade Point Average)制度に関するご説明をいたしました。

お子様の時間割や成績表は、Web閲覧サービスから確認することができますので、「必要単位」と「修得単位」の比較、「///(履修放棄)」の確認等を通じて、是非、お子様と学業面での成果を共有いただきたいと思います。

詳しくは
Web閲覧サービス
(在学生の保護者様限定)

学生部

安全・安心な学生生活のため、奨学金や課外活動など、多岐にわたる相談・サポート

奨学金については、日本学生支援機構による貸与・給付奨学金のほか、本学独自の給付奨学金を設け、経済面での支援を実施しています。学生総合保健支援センターでは、障がいのある学生の支援のほか、人間関係や勉学上の悩みなどに向き合う学生相談室を設け、ご家族からの相談にも応じています。また、様々なハラスメント問題に対応するため、専用の相談電話やメールアドレスも用意しています。

就職キャリア支援部

学年ごとに就職支援を実施。就職活動の主役は学生本人。保護者には「サポーター」

2022年度本学卒業生の就職率は95.6%で、コロナ禍以前の水準までは回復しなかったものの、前年度に比べ微増となりました。受ける企業を厳選し過ぎず、活動量を増やすことが内定獲得のカギと言えそうです。保護者の価値観や言葉は、学生たちの意思決定に大きな影響を及ぼします。「無関心」でも「過保護」でもなく、「サポーター」として学生本人を支えていただくようお願いします。

✦ はばたく・かがやく ✦

OB・OG訪問

「トレーナーとして高校球児を支える父の姿に感銘を受けて」

佐藤　洋 さん

株式会社H2アシスト 代表取締役

2013年3月教養学部地域構想学科卒業。3年次在学中の2011年4月からダブルスクールで「柔道整復師」を養成する3年制の専門学校に通学し、本学卒業後も勉強を続けた。さらに「鍼灸師」「あんまマッサージ指圧師」の資格取得をめざし勉強を継続。2017年3月、26歳の時に専門学校を卒業し、仙台市太白区長町に「佐藤接骨院スーパースポーツゼビオあすと長町店」をオープンした。現在は、「治療」と「トレーニング」を掛け合わせた「コンディショニングセンター」という新たな事業づくりにも挑戦中。母校でもある東北学院高校が夏の甲子園初出場を果たした2021年には、トレーナーとして選手たちに同行した。

「治療」と「トレーニング」をワンストップで提供。大好きな街仙台から100万人を元気に！

2001年春の選抜高校野球大会で仙台育英学園高校が準優勝した時、トレーナーとして選手たちを支えたのが、現在、接骨院などの健康関連事業を展開する株式会社H2アシスト代表取締役・佐藤洋さんのお父さまだ。「まだ小学４年生だった私を、父が甲子園に同行させてくれました。選手たちと同じ宿舎に泊まる中、『先生、何とかしてください』と選手たちから頼りにされている父の姿に感銘を受け、自分も将来はこの仕事に就こうと心に決めました」。

高校卒業後は、「大学で人脈を広げ、仙台での事業の基盤づくりをしてはどうか」というお父さまからのアドバイスもあり、本学への進学を選択。教養学部地域構想学科に入学し、在学中はスポーツ科学を専門とする高橋信二教授のゼミで学んだ。「開業後に感じたのは、本学の卒業生のネットワークの大きさと強さ。多くの先輩・後輩たちからあたたかくサポートしていただいています」。

コロナ禍で厳しい時期もあったものの、その後は、アメリカではすでに一般的になりつつある「コンディショニングセンター」などの新事業にも着手。「40歳までには延べ100万人を、50歳になったら年間100万人を、60歳になったら1日100万人を元気にできる、そんな会社をめざしていきます」。

株式会社H２アシスト

- 設立 2016年12月
- 代表取締役 佐藤 洋
- 所在地
  〒982-0007 宮城県仙台市太白区あすと長町1-4-50

会社名の「H2アシスト」には、健康づくり(Health)のアシストとスポーツ選手をヒーロー(Hero)にするためのアシストをする会社という思いが込められている。佐藤接骨院スーパースポーツゼビオあすと長町店に加え、仙台コンディショニングセンター、美容鍼のFace Conditioning hari Lab.を運営。

情報科学の分野で変化の一歩先を行く使命感を持って。

菅原 研ゼミ

情報学部 データサイエンス学科

菅原 研 教授

2004年より東北学院大学教養学部助教授、2007年同准教授、2013年同教授、2023年4月より情報学部データサイエンス学科教授。博士（情報科学）（東北大学）。

■ 研究キーワード
自律分散システム、群知能ロボット など

視覚支援学校でのプログラミング教育を支援

2020年から小学校でのプログラミング教育が必修化されました。そうした中、私たちに相談を持ちかけられたのが、視覚支援学校の校長先生でした。視覚にハンディキャップのある子どもたちに、どんなやり方でプログラミングを教えればいいのか。視覚支援学校の先生たちにとって、プログラミング教育の必修化はとてもハードルが高いものだったのです。

そこで私たちが考えたのが、QRコードと点字を貼ったブロックを用いてプログラミングを行い、micro:bit（マイクロビット／プログラミング教育用に作られたマイコンボード）を制御するというもの。これを教材に授業をしてみたところ、「まっすぐに行け」「左に曲がれ」といったブロックの指示（プログラム）通りにロボットが動いていることを、子どもたちは手で触りながら確かめ、目が見える、見えないに関係なく、授業を楽しんでくれていました。

この視覚支援学校でのプロジェクトは、同じ情報学部の松本章代教授の研究室と共同で取り組んでいるものです。私たちの研究室では、「まずは楽しむこと」を第一に低学年の授業を担当、松本先生の研究室では、高学年の生徒を対象に、算数や理科、英語といった教科との連携を意識したプログラミングの授業を展開しています。もっと使いやすい教材の開発という点でもまだまだ発展する余地はありますし、小学生以外のいろいろな世代へと研究の対象が広がっていくことも期待できると考えています。

楽しく研究に取り組むことをモットーに

私が専門とするのは、自律分散システムを利用したロボティクスの研究です。自律分散システムとは、大型コンピュータを中央に持たず、すべての端末が自律的に行動しながら、全体がひとつのシステムとして稼働しているシステムのこと。比較的単純なロボットが集団で協調的に振る舞うことにより、高度な機能を発現する「群ロボット」の研究に特に関心を持っています。群ロボットには、「たくさんいるから、少し欠けても仕事ができる」「たくさんいるから、力を合わせて仕事ができる」「たくさんいるから、手分けして仕事ができる」といったメリットがあり、また、集団でごちゃごちゃと動くロボットに興味が湧くのか、ゼミに参加する学生の半数ほどはこのテーマで卒業研究を行っています。

ゼミ活動で私が大切にしているのは、楽しく研究に取り組むということ。ゼミの仲間たちと一緒に楽しく、自由に活発に話し合いながら、それぞれの研究テーマに積極的にチャレンジしていってくれることを願っています。

教養学部情報科学科としてのこれまでの歩みをベースに、2023年4月からは情報学部データサイエンス学科の教員・研究者として新たなスタートを切りました。情報科学の分野ではいま、生成AIの登場が大きな話題となっています。こうした技術の登場により、基本的な素養として必要とされてきたプログラミングというものの位置付けが、今後大きく変わっていくことも考えられます。そうした変化をキャッチアップしながら、さらに一歩先を行くかたちで教育を行っていくことが、私たち教員には求められています。常に一歩先を行くという使命感を持ちながら、学生たちとともにチャレンジを続けていきたいと思います。

ゼミ生に感想を聞きました

ロボットやゲーム、視覚支援など、研究テーマについて幅広い選択肢があるのがこのゼミの強みだと思います。ゼミの学生は、チームでやっていくということに長けているタイプの学生が多いと感じます。いろいろと話す中で、「一緒にこれをやってみよう！」ということもよくあり、研究に対して積極的に取り組むことができています。

情報科学科 4年 齊藤 巧真さん

クラブ紹介　TGG　Tohoku Gakuin Gaming

人気の４タイトルを中心に、活発な活動を展開中。

STUDENT'S VOICE

代表
宮崎 泰徳
経営学部経営学科 2年
個人でも団体でも楽しむことができるのがeスポーツの魅力。サークル員みんなでレベルアップを図り、いずれは全国レベルの大会にも挑戦してみたいです。

コンピュータゲームが誕生してから40年あまり、「eスポーツ（エレクトリック・スポーツの略）」が人気を博している。現在では国内大会、国際大会も数多く開催され、日本のeスポーツファン（試合観戦・動画視聴経験者）は700万人（※1）に達すると言われる。

東北学院大学でも、2022年に大学公認サークルであるTGGが誕生し、現在の登録メンバーは150人を超えているという。TGGでは、現在、eスポーツとしても人気の高い４つのゲームをピックアップし、タイトル別に“APEX部門” “VALORANT部門” “スプラトゥーン部門” “大乱闘スマッシュブラザーズ部門（スマブラ）”の４つの部門を設け、活発な活動を展開している。TGG代表を務める宮崎泰徳さんは、活動の目的と将来に向けた目標を次のように語る。「同じタイトルをプレイするサークル員間の交流を深めつつ、ゲームを楽しむだけでなく、eスポーツのサークルとして、メンバーのレベルアップや大会への参加、入賞を目指していきたいと考えています」。

週２回(木、土曜日）のオンラインでの活動のほか、月１回、第４木曜日に100名近いメンバーが参加する対面企画を開催。定例の活動以外にも、空き時間にサークル員同士で集まり、自由にゲームを楽しんでいる。昨年は、TGGを含む宮城県内４大学のeスポーツ系サークルが集まり、スマブラの競技会を開催した。「昨年は４大学中３位という結果でしたが、こうした競技の輪を東北や北海道に広げるとともに、全国レベルの大会にも挑戦していきたいです」。

※1：一般社団法人日本eスポーツ連合／角川アスキー総合研究所「日本eスポーツ白書2022」

クラブ紹介　ワンダーフォーゲル部

「自然の旅を全うする」を掲げ、安全を第一に長期合宿にも挑戦。

STUDENT'S VOICE

主将
茂木 洸太
法学部法律学科 ３年
2023年8月の夏合宿では、日本一遠い秘湯と言われる高天原温泉、そして槍ヶ岳登頂をメインにした6泊7日の北アルプス縦走に挑み、体全体で自然を感じることができました。

ドイツ語で「渡り鳥」を表すワンダーフォーゲル（Wandervogel）は、19世紀末頃にドイツで誕生した。単なる山登りではなく、山を含んだすべての自然と触れ合うことによって、自らの心と体を鍛え、人との関わりの大切さをつかむことを活動の目的としている。

創部以来50年を超える歴史を持つ東北学院大学ワンダーフォーゲル部。2023年度は「自然の旅を全うする」を活動方針として掲げ、①部員同士の絆、②身体と技術の向上、③リスクマネジメントの向上の３点を重視し活動を行っている。「命にかかわることもあるだけに、新入部員については、合宿に耐えられる十分な体力や技術があるかを見極める二度の訓練合宿を課している」と話す主将の茂木洸太さん。基礎技術の習得をめざす一次訓練合宿の後、さらに二次訓練合宿によって基礎技術を完成させ、夏合宿以降の合宿で新入部員から正部員への昇格を認めるかどうか判断するという。

部では、季節ごとの合宿のほか、個々が企画し山行や平地を旅する「フリーワンデリング」も実施。活動を通して部員たちは、仲間との唯一無二の経験を、自然の雄大な景色とともに記憶に刻んでいる。

つなぐ、つながる、つなげる

つながる・トビラ・

大学と地域、人と人、今と未来

地域の未来を切り開く、地域との交流拠点として

未来の扉センター

人と地域社会が共に育つことをめざして、この春誕生した五橋キャンパスに、
地域との連携の拠点となる「未来の扉センター」を開設しました。

幅広い利用目的に対応可能な広々空間

社会が成熟し市民一人ひとりの興味関心が多様になった今日、大学には、市民に向けた幅広い学びの機会の提供や、市民との交流を通して地域活性化のための活動を推進する使命が期待されています。学生や教職員、地域市民が相互に交流を深め、さまざまな機会を通じて人間的な成長や学問への気付きを得ながら、地域社会の未来に貢献すること。そのために東北学院大学は、新たに誕生した五橋キャンパスに「未来の扉センター」を開設しました。

未来の扉センターは、五橋キャンパスのランドマークとも言える建物、地上16 階建てのシュネーダー記念館１階にあります。グリーンのカーペットが敷かれた広々とした空間には、ソファやテーブルなどがゆったりと配置され、ミーティングや会議、講習会、ワークショップなど、幅広い目的に対応可能。すでに、公開講座や近隣の商店街の会合、本学の学生や留学生も参加した七夕飾りづくりのイベントなど、さまざまな催しに利用されています。

新キャンパス誕生に寄せられる期待

五橋キャンパスの誕生は、地域の活性化という点でも大きな期待を持って受け止められています。五橋キャンパスのある仙台市若林区では、町内会、商店街や区役所などから連携した取組の要望が多く寄せられています。

その一つが、本学の学生が荒町や連坊小路、南材木町などの商店街を訪問し、取材・撮影・編集した映像をさまざまな場で発信・公開する「スマホで完結！地域の動画制作プロジェクト」。この取り組みでは、若林区が依頼した映像関係の講師の方から学生たちが直接指導を受けて映像を制作、完成した動画を未来の扉センター、さらには若林区民まつりでの公開を経て、最終的には仙台市の公式YouTubeにアップされる予定となっています。

そのほかにも地域のお祭りの運営や公園の環境整備、防犯や情報発信のボランティアなど様々な連携活動が行われており、活動を通して地域のみなさんと言葉を交わし、交流を深めるという経験は、参加する学生にとっても貴重な機会となっています。

東北学院大学のサポーターづくりをめざして

本学で未来の扉センターの運営や地域との連携を担っているのが地域連携センター及び総務部地域連携課です。地域連携課で重視しているのは、いろいろな媒体を活用した「情報発信」。その一つに、五橋キャンパスの誕生に合わせスタートしたDate fmのラジオ番組「RADIO COLLEGE」※があります。この番組では、五橋キャンパス内の施設やキャンパス周辺のスポット情報、4月に誕生した４つの新学部についての情報などを紹介しています。1・2年次生の学びをサポートするアカデミックサポーターの学生も出演し、「東北学院大学のいま」を学生の生の声とともに発信。週１回の放送時は、五橋キャンパス内に設けられたスピーカーからも放送が流され、昼休み時間中の学生の耳にも届けられています。

さまざまな手法を用いた情報発信には、「東北学院大学のサポーターを増やすという目的がある」と地域連携課のメンバーは話します。「多様な活動や情報発信を通して本学の魅力をお伝えしていく。そこで力を発揮するのが口コミです。『あの大学って、こんなことをやっているんだ。うちも相談してみよう』といった形で、徐々に地域との連携が広がっていく。地域に開かれた未来の扉は、宮城県から東北、そして日本の未来へとつながっています」。

※東北学院大学提供番組「RADIO COLLEGE」
放送局：Date fm／エフエム仙台（周波数77.1MHz）
放送日時：毎週水曜日12時30分～12時55分

未来の扉センター

■ 利用時間：9時～17時（日・祝日除く）
■ お問い合わせ：022-354-8140
（地域連携課）

地下鉄五橋駅 南2出口から直結。

国際交流部より　東北学院大学生の留学

東北学院大学の留学制度には、長期留学として交換留学と認定留学、短期留学では協定校プログラムと協定校以外のプログラムがあります。また、制度を利用せずに本学を休学して私費留学したり、卒業後に海外の大学院進学を目指したりする学生もいます。

●長期留学

https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/global/abroad/

語学力を活かして1～２学期間留学します。

本学の制度では、留学先大学の正規科目を履修するので、所属学部の承認が得られれば、留学先で修得した単位が本学の単位として帰国後に認定されます。

●短期留学

春・夏の長期休暇を利用して、語学学校での語学研修、協定校での文化体験プログラムなどに参加する２～8週間ほどの短い留学です。

2023年度
春休み短期留学プログラム

協定校プログラム
https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/global/abroad/partner.html

協定校以外のプログラム
https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/global/abroad/abroad.html

就職キャリア支援部より　新たな就活講座の開講

ハイキャリア講座

９月12･13･17･18日の４日間、株式会社文化放送キャリアパートナーズの協力のもと、「ハイキャリア講座」を開催しました。自分の可能性に上限を定めることなく、幅広い視野を持って学生がそれぞれの「ハイキャリア」を築けるよう動機づけをすることが、当講座の目的です。学部３年生・大学院１年生合わせて約20名が参加し、前半の２日間では、首都圏での就職活動に関する講座や、読売新聞東京本社・東洋経済新報社の講師による業界・企業研究に関する講座を受講しました。併せてグループワークも行い、受講生は互いに協力し合いながら理解を深めていました。後半２日間は東京で開催され、大手企業の見学や首都圏の学生との交流会、各業界を代表するトップ企業が集まる就活イベントへの参加など、充実したプログラムに取り組みました。参加した学生はこの４日間を通して、これからの就職活動について改めて考える契機を得たようでした。当講座での学びが今後のより良いキャリア形成に繋がることを期待しています。

ホスピタリティ・マネジメント講座

９月６・７・８・11日の４日間、「ホスピタリティ・マネジメント講座」を開催しました。当講座は、エアラインやホテル、テーマパーク業界などで求められるホスピタリティについて学び、将来に向けて広い視野を養うことを目的としています。日本航空株式会社（JAL）の現役キャビン・アテンダントを講師として迎え、学部１～３年生の約30名の学生が参加しました。

最初の３日間はオンライン開催で、各業界の特徴や求められるホスピタリティについて実践を通じて学び、最後の１日は対面開催で、「未来の“夢カフェ”」をテーマにグループワークと発表を行いました。参加した学生は、チームでの協働を通し、主体性や発信力、傾聴力なども培っている様子でした。この講座での経験が、これからの進路選択や就職活動に生かされることを願います。

土樋キャンパス～地下鉄五橋駅　連絡通路整備のお知らせ

2023年4月五橋キャンパスの完成に伴い、土樋・五橋地区を「都心型ワンキャンパス」として一体的な運用が始まりました。このことから、土樋キャンパスで開講される授業が増加し、これまで以上に多くの学生が土樋キャンパスへ通学することとなりました。

土樋キャンパス周辺は、一方通行の道路が多く道幅も狭いため授業時間前後の時間帯は、学生の移動により交通渋滞を招き歩行者の安全が懸念されておりました。

その対応策として、土樋キャンパスから愛宕上杉通りへの連絡通路を計画し、この度、仙台市様及び近隣町内会様のご理解をいただけたことで、土樋キャンパス東側から仙台市福祉プラザ様の西側を経由し仙台市立五橋中学校様の南側を通り、仙台市営地下鉄五橋駅南１出入口へ抜ける連絡通路が整備されることとなりました。既存の敷地状況を利用した通路の設置となるため、多数の学生移動に対応できる十分な通路幅とは言えませんが、交通渋滞の緩和及び歩行者の安全確保に少しでも寄与できればと考えております。

なお、連絡通路の利用については、2023年11月中旬頃を予定しています。

後援会からのお知らせ

保護者の方限定

PRESENT プレゼント応募方法

■ 中室 牧子氏サイン本プレゼント（書籍版３冊・マンガ版３冊）

1.まだの方は、後援会LINEを友だち登録

2.応募はこちらから
応募締切
2023年12月15日(金)

※当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

6名様